

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500093		
法人名	株式会社夢工房		
事業所名(ユニット名)	グループホームみんなの家【ユニット名:1階】		
所在地	和歌山県東牟婁郡太地町太地2902-95		
自己評価作成日	平成24年3月28日	評価結果市町村受理日	平成24年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092500093&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お年寄りといっしょに、理想の生活(介護現場)をつかっていきたい
 いい生活を守るためには、心ある職員の養成が不可欠です。「歳をとっても(夢)したいことをあきらめない」の理念の通り、利用者も職員も思いが実現できる場所でありたい。
 「みんなの家」の名前の通り、普通に自宅にいるように、自分の家族にするように、利用者同士の助け合いも支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海のリゾート地にあり、窓の向こうに海原が広がる等心ゆったり過ごせる環境にある。職員育成が進めば良い介護に繋がるという独自の考えを持って運営者(管理者)は、リーダーシップを発揮し職員と共によりよいケアを目指している。運営者と職員の信頼関係も良好で、運営理念「夢をあきらめない」を利用者にも職員にもあてはめ、夢が実現できるようバックアップしている。立位の取れなかった人や何もせず一日を過ごしていた利用者が介助を受けながらも歩いたり、趣味に生き甲斐を感じて元気になったのは職員による利用者本位のケアのたまものである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「歳をとっても夢(したいこと)をあきらめない」をみんなの理念、「利用者にとって良いか」を判断基準に、現場を支える職員の育成に取り組んでいます。管理者と職員は毎日研鑽しています。	「歳をとっても夢(したいこと)をあきらめない」という理念を掲げており、常に向上心を持ち一日一日を大切に過ごしていただくことは管理者職員での共通認識である。職員は利用者においてそれが「本人にとって良いことか」を考え、職員同士もお互いの夢をオープンにして、達成できるよう常日頃から行動に移している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域のスーパーで夕食の買い物や福祉センターなどへの散歩を通して、普通に自宅での交流を心がけています。	週2回は献立を決めず、利用者と職員で地域のスーパーに行って食材を見て決めてもらうようにしている。また避難場所に指定されている福祉センターに足湯をかねて散歩に行くことも多く、地域で暮らすということが当たり前になっている。	こちらから地域にでていくことは多いが地域の皆さんに気軽に事業所を訪問していただくことで、より理解が深められる。今後地域との積極的な交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できるだけ外に出かけるなど、ありのままを見ていただき、その姿で安心していただけるよう心がけ付き添っています。見学、相談はいつでもお受けしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期開催、行政・民生委員、家族、当事者、現場職員が参加し、パワーポイントを使用して事業所の現状を視覚的にわかりやすく報告しています。	2ヶ月に1度開催されており、利用者、家族、行政、地域代表等の参加がある。利用者のご家族全てに案内を出しているが平日の2時ということで参加が限られている。日頃撮影された写真等をパワーポイントで見させていただきながら説明をするので参加者から好評である。ざっくばらんな会話により出てきた意見、アイデアを運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況の報告を行い、運営推進会議にも参加協力いただいています。	事業所と町は2ヶ月に1度の運営推進会議には常に顔を合わせ意思の疎通を図っている。上手く連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に明記するとともに、玄関に施錠しないケアを実践しています。リスクの高いご家族には特にご理解いただけるよう説明しています。	玄関の施錠は夜間を除き通常行っていない。利用者は出入りが自由なため気軽に庭先を歩き来している。遠くへでいった場合も職員は後ろをついて行く等、利用者が満足するまで散歩できている。身体拘束について外部研修を受けた職員が伝達講習を行い共通理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修し、虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用が必要な方については管理者が支援しています。職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修し、それらを活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安が消えるような説明を行い、理解が得られるよう心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部機関の苦情相談窓口を説明。最低月に1回以上家族と話し合う機会を持っています。全員を運営推進会議にお誘いする等、普段から意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに心がけています。	毎月利用料を支払いに家族が事業所を訪れる際に意見、要望の聞き取りをしている。また別に多数の外部公共機関があり、事業所以外にも不満、苦情などを表せる機会があることも伝えて、より多くの意見、要望を出してもらえるよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、「利用者にとっていいのか」を判断基準に、職員間の自主性を尊重しています。前向きな意見には一度やってみることをすすめています。	職員のレベルアップが利用者へのサービス向上に繋がるとの考えから職員にはやる気を出させる為にもやりたいことを勧める風土がある。怖れず、いろいろなことにチャレンジし運営にも反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいと能力の向上、長く勤められる労働条件の最善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場を支える職員を育てたい。やる気のある職員の思いが実践できる場所でありたい。資格取得も応援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の受け入れや同業者との交流を職員を育成する機会とし、積極的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活の不安を最小にするため、今までの生活リズムを尊重して、時間をかけて徐々に慣れて行く過程を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい生活の不安を最小にするため、ご家族の意見を取り入れ、理解と協力が得られるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時には、入居に関わらず、状況を勘案して知りうる有効な方法を助言しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「みんなの家」の名前の通り、職員も利用者もお互いに支え合う関係を目指しています。利用者同士の助け合いを支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって一番大切なのはご家族ですから絆を大切に、情報を共有し、理解と協力が得られるよう心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普通に自宅にいるように、買物等外出をし、手紙を出すなどしています。ご家族や知人が本人へのお客様として、気軽に来やすい雰囲気作りを心がけています。	買い物や福祉センターへの外出を増やす等、馴染みの知人と顔を合わせる機会を増やすための支援がなされている。家族や友人などに年賀状(半紙に筆で字を書き、それを縮小コピーでハガキ大にしたもの)を作って喜ばれるなど関係継続のために支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルを早期に予防して、いい関係が構築できるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居したあとでも、本人やご家族の相談をお受けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族の意向、今までの生活リズム、関係性を尊重しながら、明日に生きがいを感ぜられる支援を模索しています。	書類作成を簡略にし、一目でその人の気分が分かるようにする等、思いや意向の把握のため個別記録の取り方を工夫している。顔マークを一日3回記録するようにしてその日の気分を推し測りケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネジャーからの引き継ぎや本人、ご家族からの情報等、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録から健康、食事、排せつ、人間関係等、生活の中で変化がないか把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、本人、ご家族との信頼関係を築く中で得た、思いに近づく情報を共有し、試行しながらより良い介護計画の完成を目指しています。	介護計画は月1～2回顔を合わせる家族の意向や利用者の希望を踏まえ、また協力医等関係者の意見を取り入れながら、職員の気付き等を会議にて十分話し合い作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と連動した個別記録を職員全員で記入し、情報を共有し、試行しながらより良い介護計画の完成を目指しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本は、自分の家族にするように、今できることを行えるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普通に自宅にいるように、地域の方々と生活していけるように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望する医療機関を利用しています。受診にご家族が付き添えない場合は、職員が付き添い適切な医療が受けられるように支援しています。	利用者の2/3は近くの協力医を主治医としており、2週間毎に往診を受けている。そのほかの利用者は希望のかかりつけ医を持っている。また、体調に変化あれば協力医が分け隔てなく診てくれる。受診時は原則として付き添いは家族となっているが、行けない時は職員が代わって付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に相談しています。近隣の医師の定期往診があり、気軽に相談できます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室と情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については、ご家族等が後悔されないように丁寧に説明し、理解が得られた場合、医師と相談して受け入れた実績があります。	過去に看取りをしたことがある。家族が納得し、後悔しないよう気を配り、十分な理解を得よう進めている。協力医がターミナルについて協力を申し出てくれるので支援に向けた取り組みが整いつつある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習やAED講習を受講し、緊急時マニュアルにそって訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を行い、消防立ち会いの訓練や防災研修を受けています。非常食、救命胴衣、防災頭巾等を準備しています。	目の前が海という地形からも、特に津波に対するの準備を周到にしている。夜間の場合は津波は6メートルまでなら全員2階に上がり救命胴衣を付け救助を待つ、火災は避難場所である福祉センターまで移動する等のマニュアルを作っている。また、消防署立ち会いで避難訓練を行いコメントをいただき次の段階への取り組みとしている。	夜間等特に人手が無い時のためにも、地域からの協力が得られるよう近隣の住民に避難訓練への参加を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のような関係を理想とし、職業人として相手の立場に立った親切さ、丁寧さを心がけています。	以前、一部の職員で呼び名はちゃん付けだったこともあったが人格の尊重という観点から現在は行っていない。過保護や関わりすぎにも注意して誇りやプライバシーを損ねない関わりを持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念の通り、したいことが実現できる場所でありたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同じである必要はありませんので、一人ひとりのペースに合った前向きな一日の過ごし方をいっしょに模索しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出かけて行く機会を増やし、おしゃれができるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を生活の主軸と考えて、いっしょに作っていっしょに食べています。週2日ですがメニューを決めず、いっしょに買物に出かけています。	週2回は献立を決めず利用者が買い物に行き決定することや準備、片付けに関わることで食事に対して張り合いを持てるようにしている。また職員も共にテーブルにつき介助しながら食事が楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、状態に対応したケアを心がけています。普段からお茶の機会を増やして水分摂取の習慣を作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表により、個々のパターンを理解して、トイレへ誘導しています。	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレ誘導に繋げており、ほとんど寝たままだった人が現在介助を受けながらトイレまで自足歩行できるようになったケースもある。一人ひとりの排泄自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、毎朝のヨーグルト摂取や運動量の確保など行い、難しい場合に薬を服用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ベースとなる入浴時間はありますが、希望や必要があれば、夜間でも入浴できます。	基本的に週3回の入浴となっており、拒否する方も時間を掛けて対応し、気持ちよく入浴できるよう支援している。午後のおやつのおあとから5時頃までの入浴であるが希望があれば夜間対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の過ごし方を工夫して、安眠できるリズム作りを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬と説明書を保管。一日単位で準備し、服用を確認しています。変化があれば医師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支え合う人間関係の中で、自然と役割が生まれています。一人ひとりがいきいきとした一日が過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普通に家にいるように、外に出かけるようにしています。玄関を開放し、閉じ込められている雰囲気にならないように心がけています。	玄関は夜間以外施錠せず自由に入出りできる。また足湯のある福祉センターが避難場所となっており、散歩を兼ねての外出を行っている。また週2回は地域のスーパーへ買い物に出かけており、閉じこもることの無いよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じて、混乱されない範囲であれば、自由に所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人にとって、ご家族等のつながりは最重要ですので、理解と協力が得られるように支援を心がけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通に家にいるように、自然と集まって笑える空間を心がけています。	中央に居間があり、周りを居室が取り囲むようなレイアウトで、居間は一日の大半を過ごす共用空間となっている。壁には行事の写真が数多く飾られ、楽しめるものとなっている。トイレや風呂等掃除も行き届き気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室に気の合う者が集まり過ごしています。マッサージ器等自由に利用できます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人のスペースですので、生活に支障がなければ自由に持ち込み可能です。自室と感じられるように身近に慣れた物を置いていただくようご家族にお話しています。	ベッドとタンスは備え付けで他は自由に持ち込めるようにしているが、安全面からコンパクトにすっきりした居室作りを心掛けている。掃除は行き届いており居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置など設備以外にも行動パターンを把握して、危険がないように心がけています。		